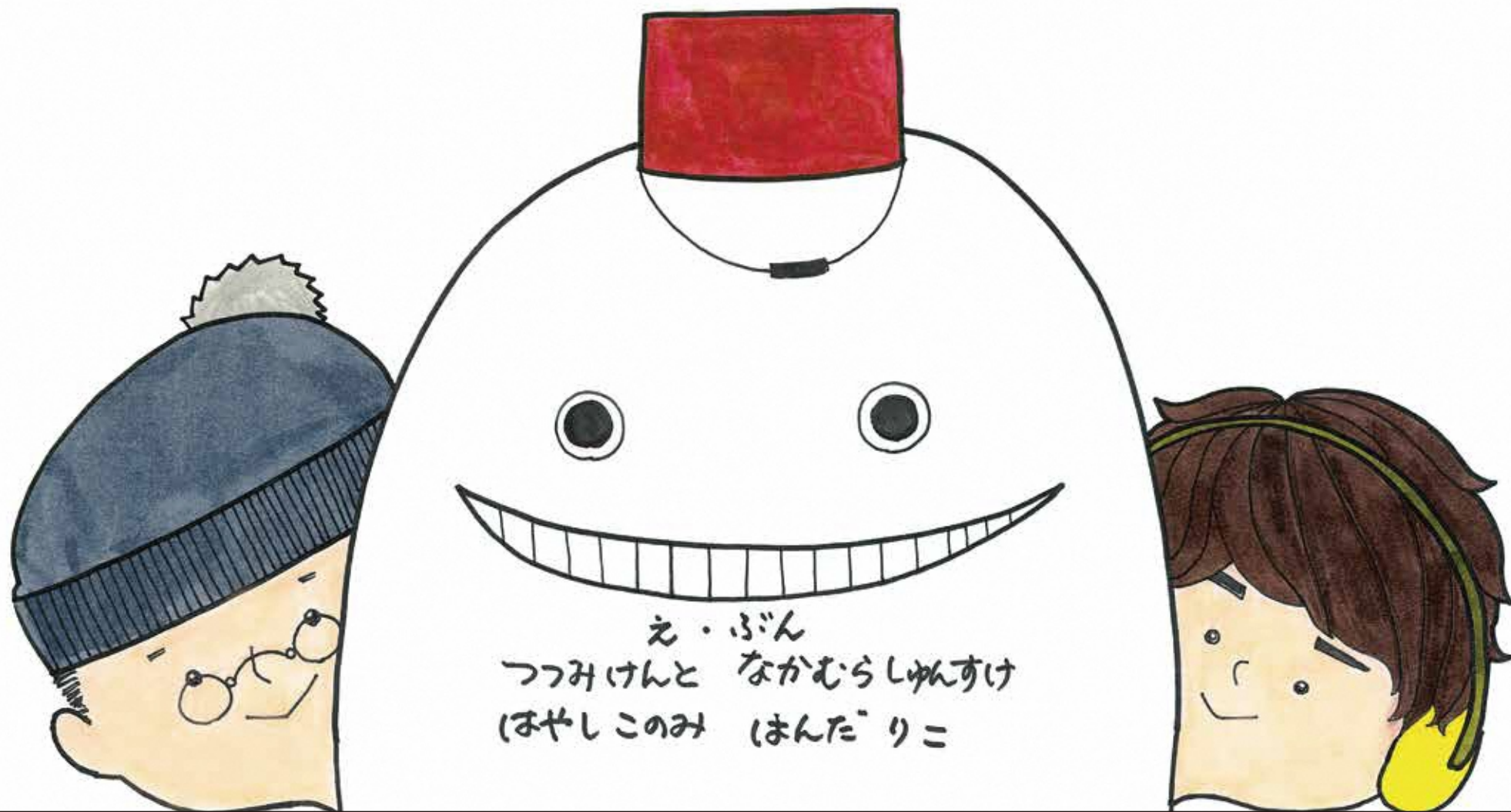


スノーマシン

が やって来た



え・ぶん
つつみけんと なかむらしゅんすけ
ほやしこのみ はんだりこ

にちようびの あさ

そとは きのうから ふりだした ゆきが

まだ ふりつづいています。

なんだか いつもより シーンとしています。

ときどき きのえだに つもったゆきが さっと おちます。



「そとで ゆきあそびがしたいよー。」

と、けん と しゅんすけは おとうさんに いいました。

でも おとうさんは

「こんな おおゆきの ひは そとにでて あそんでは だめ。」

と、いいました。

しかたなく ふたりは コタツに はいって ゲームをしました。

そして ふたりとも いつのまにか うたたねを してしまいました。



ゆきが やんで おひさまが かおを だしました。そらは まっさおです。

いえの やねも きも どうろも くべつが つかないくらい

たくさんゆきが つもりました。

まっしろに かがやいています。

げんかんの ドアが あいて けん と しゅんすけが かおを だしました。

「おにいちゃん すごくいっぱい ゆきが つもったね。」

と、しゅんすけが いいました。

「よーし ちかくの こうえんまで たんけんだ。」

と、けんとか 行って けん と しゅんすけは

どうろに とびだしました。

すると





『ずぼっ。』

しゅんすけの かたあしが ゆきの なかに うもれてしまいました。

「ゆきで みえなかったけど こんな ところに あなぼこが あったのかあ。」

と、しゅんすけが かおを しかめて いいました。

「しゅんすけ だいじょうぶか？」

と、けんとかが しゅんすけを たすけだしました。

「うん、だいじょうぶ。おにいちゃん いこう！」

と、しゅんすけが いった そのとき…





『どさっ。』

けんとの あしもとに、となりの いえの やねから、
つもった ゆきが おちてきました。

「うわあ！びっくりしたー！

もうすこしで ぼくは ゆきに つぶされちゃう ところだったよ。」

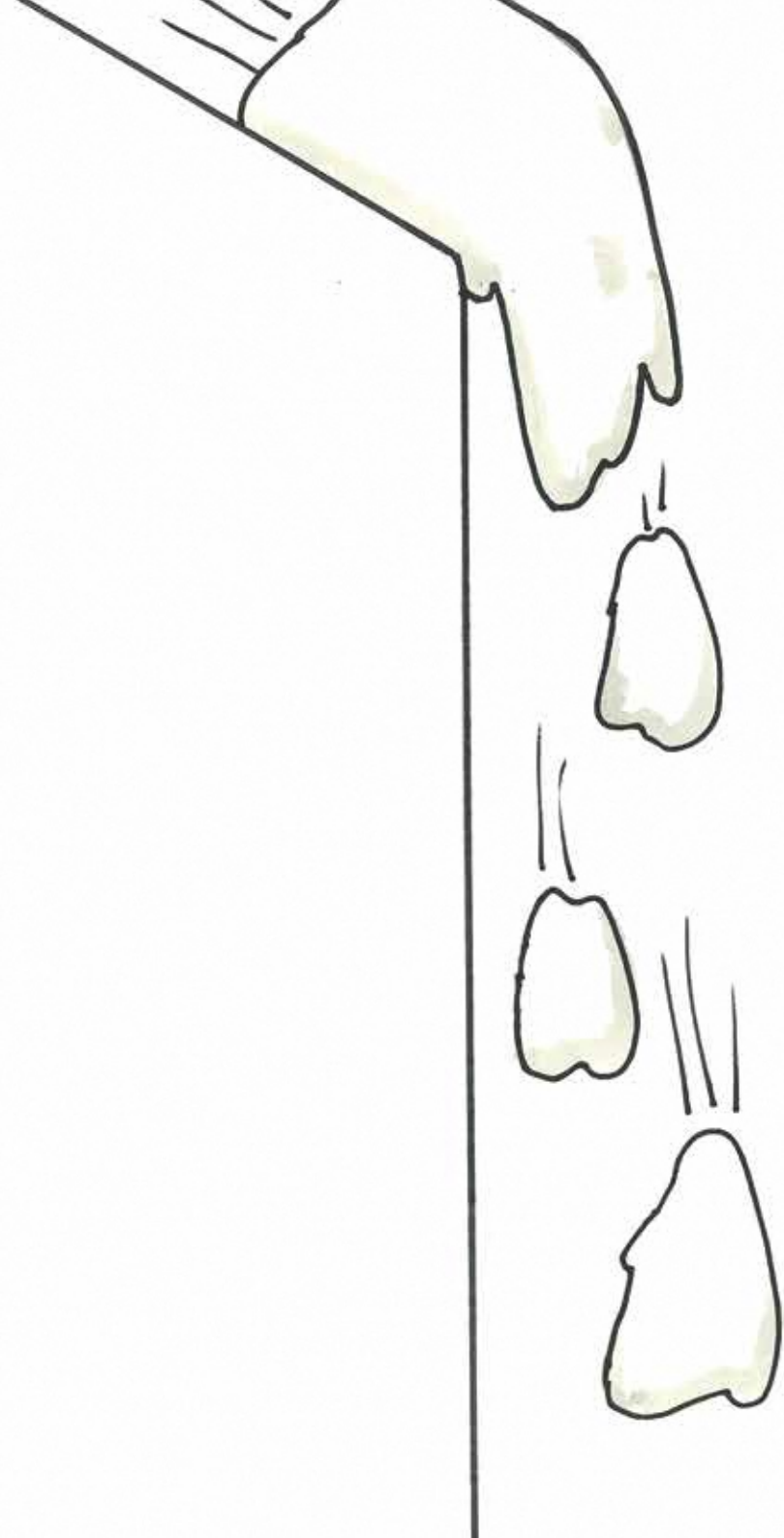
と、けんとかが むねを なでおろしながら いいました。

ふたりは げんきを とりもどして、こうえんに むかって また あるきだします。

どこが ほどうで どこが どうろか よく わかりません。

そのとき…





『ザザザーッ』

まえから きた くるまが ふたりを さけようとしたが
すべって とまりません。

「うわあああああああ！」

ふたりは ひめいを あげました。





『すってん ころりん。』

けんとは おどろいて ころんでしまいました。

けんのおしりは ゆきまみれ。

くるまは ふたりの めの まえで とまりました。

「ごめんね、だいじょうぶ？」

くるまが ゆきで すべっちゃって…すぐには とまれなかったの。」

うんてんしていた おねえさんが すまなそうに いいました。

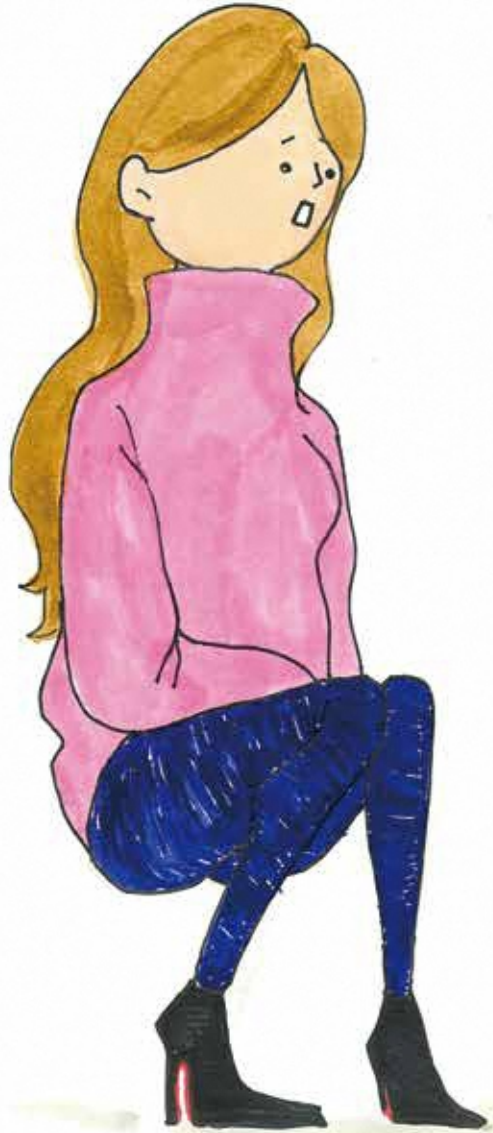
「そうなんだね、ぼくたちも きをつけて あるかなきゃ。」

と、ふたりは いいました。

そして ふたりは むねを ときどきさせながら こうえんに つきました。

すると、





「デデーン、ぼくは ゆきの くから やってきた スノーマン。

ゆきのことなら なんでも しってるよ。」

と、うしろから こえが しました。

「きょうは たいへんな めに あったね。」

と、スノーマンが いいました。

「そうなんだよ。たのしく あそびたかったんだけど、

びっくりすることばかり おきたんだ。

どうしたら ゆきのなかで あんぜんに あそべるの？」

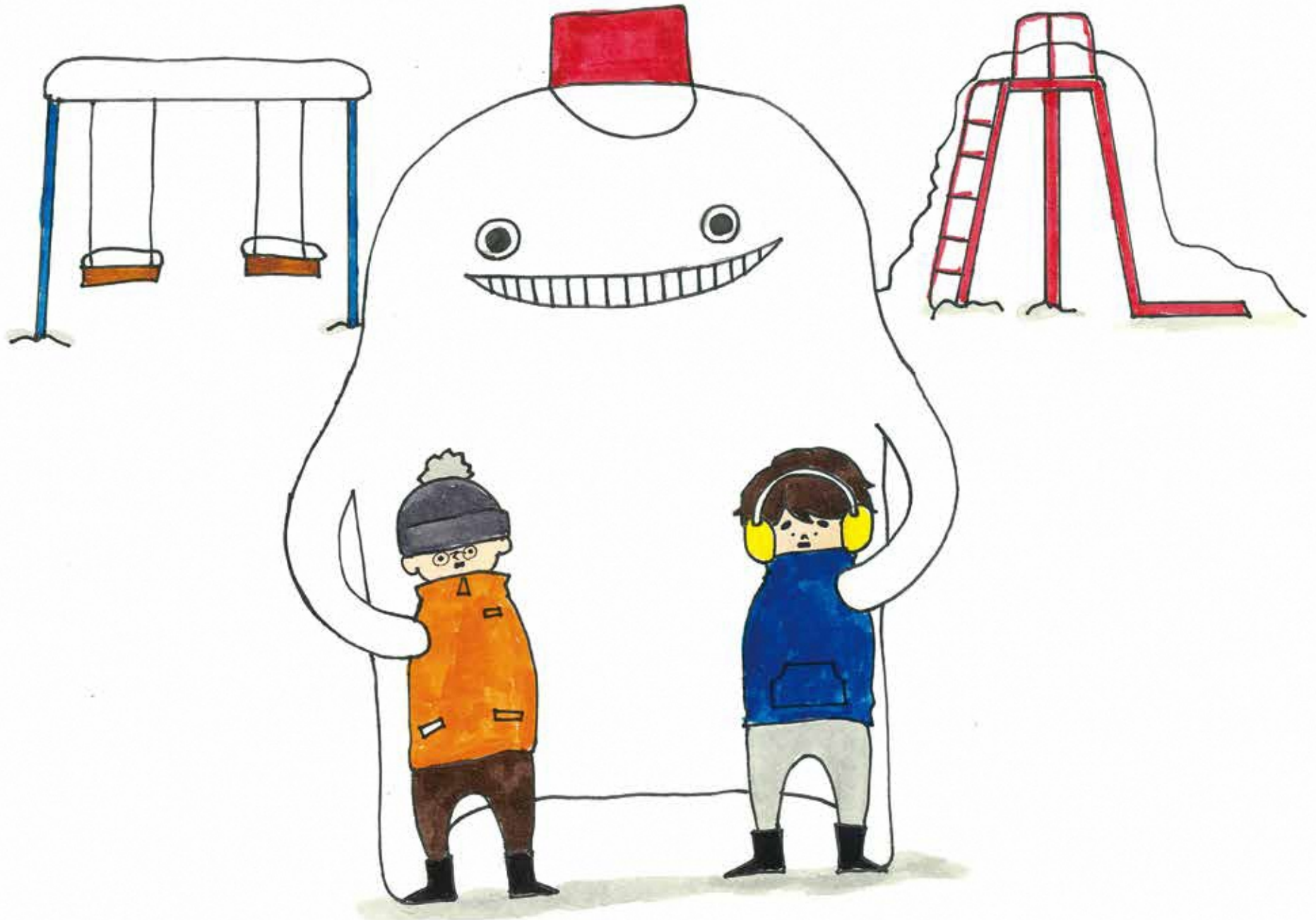
と、けんとが スノーマンに ききました。

「そうだなあ…ゆきあそびを たのしくするまえに

きをつけることが あるんだ。」

と、スノーマンが いいました。





「ただ そとにでて あそぶだけじゃ だめなの？

どうしたらいいのか おしえてよ！」

と、しゅんすけが いいました。

「きょうのように おおゆきが ふったら

そとで あそぶのは がまんして やめようね。」

と、スノーマンが いいました。

「ゆきが たくさん ふると そとは ふだんと ちがって あぶないことが

いっぱいあるよ。みぞや あなぼこが わからなくなって そこに おちて

けがをしてしまうよ。それから くるまや じてんしゃは ゆきで すべって

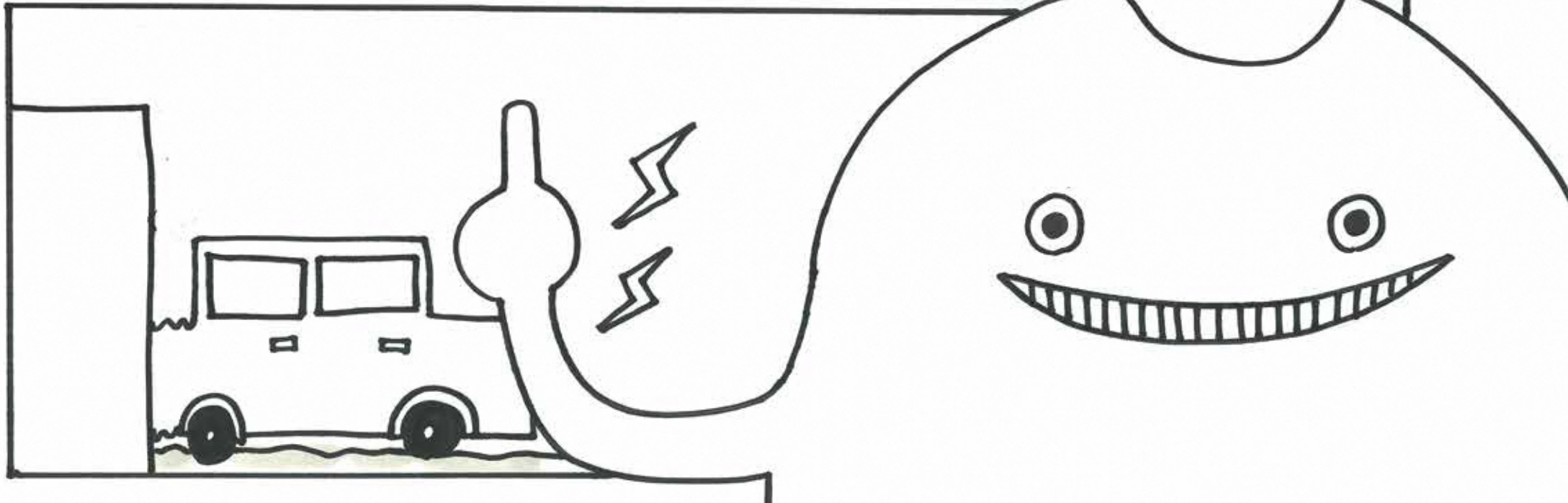
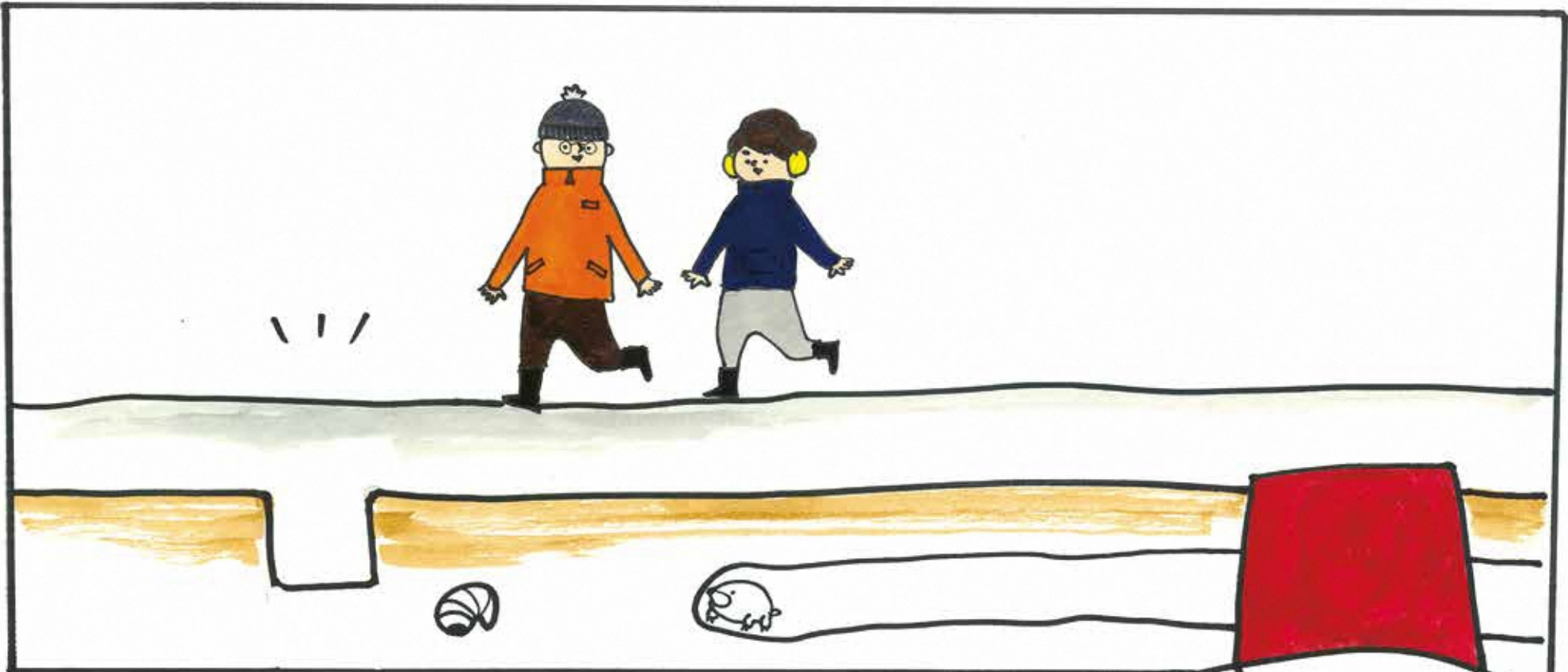
きゅうには とまれないよ。どうろで あそぶのは とてもあぶないから やめようね。」

と、スノーマンは いいました。

「そっか、ゆきが たくさん ふると、あぶないことが あるんだね。」

と、けんとかが いいました。





「それから…さっきみたいに みぞや あなぼこに おちないためにはね、
ゆきかきを していない ところには できるだけ いかないことが たいせつなんだ。」
と、スノーマンが いいました。

「じゃあ うえから おちてくる ゆきの かたまりに
つぶされないためには どうしたら いいの？」

と、けんとかが ききました。

「ゆきや つららの かたまりに つぶされないためには
やねの そばには ちかよらないこと。」

と、スノーマンが いいました。

「じゃあ うえを みて あるけば いいんだね。」

と、けんとかが いいました。

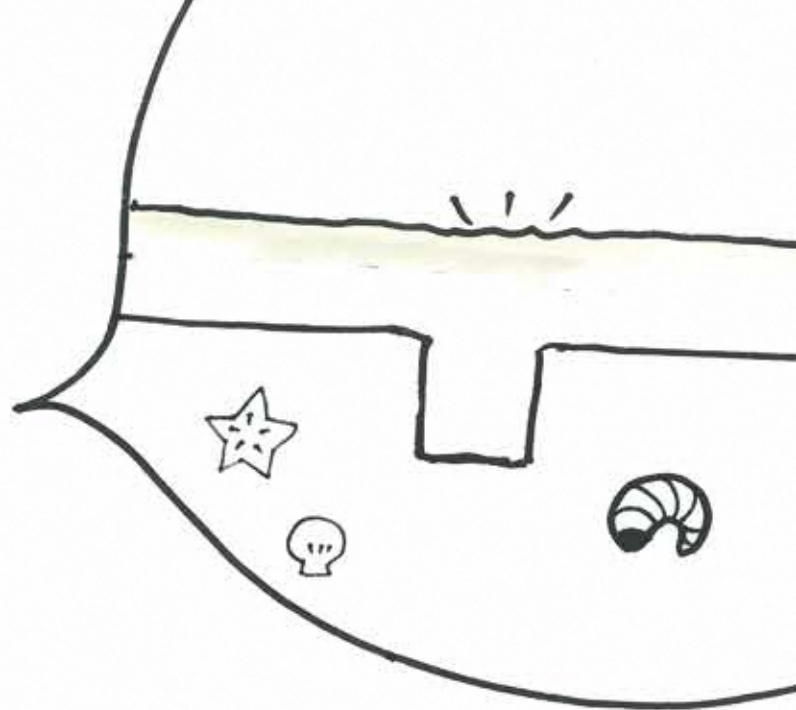
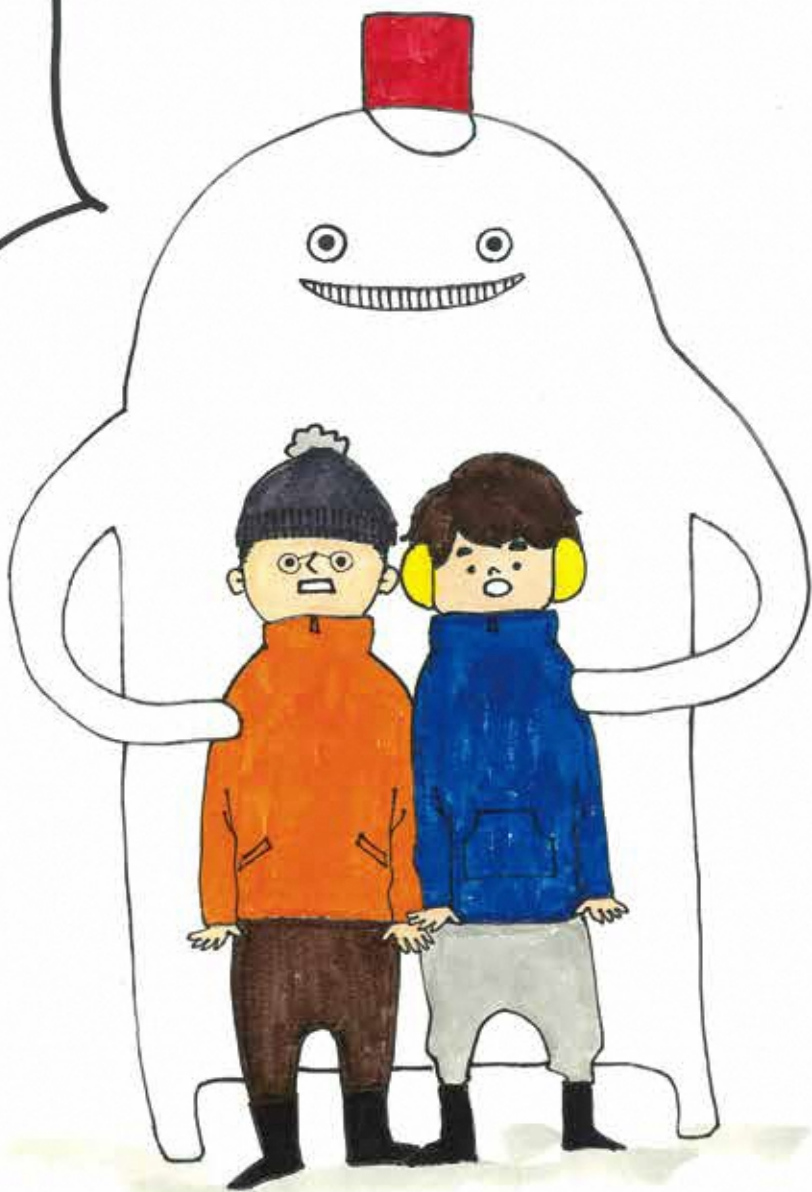
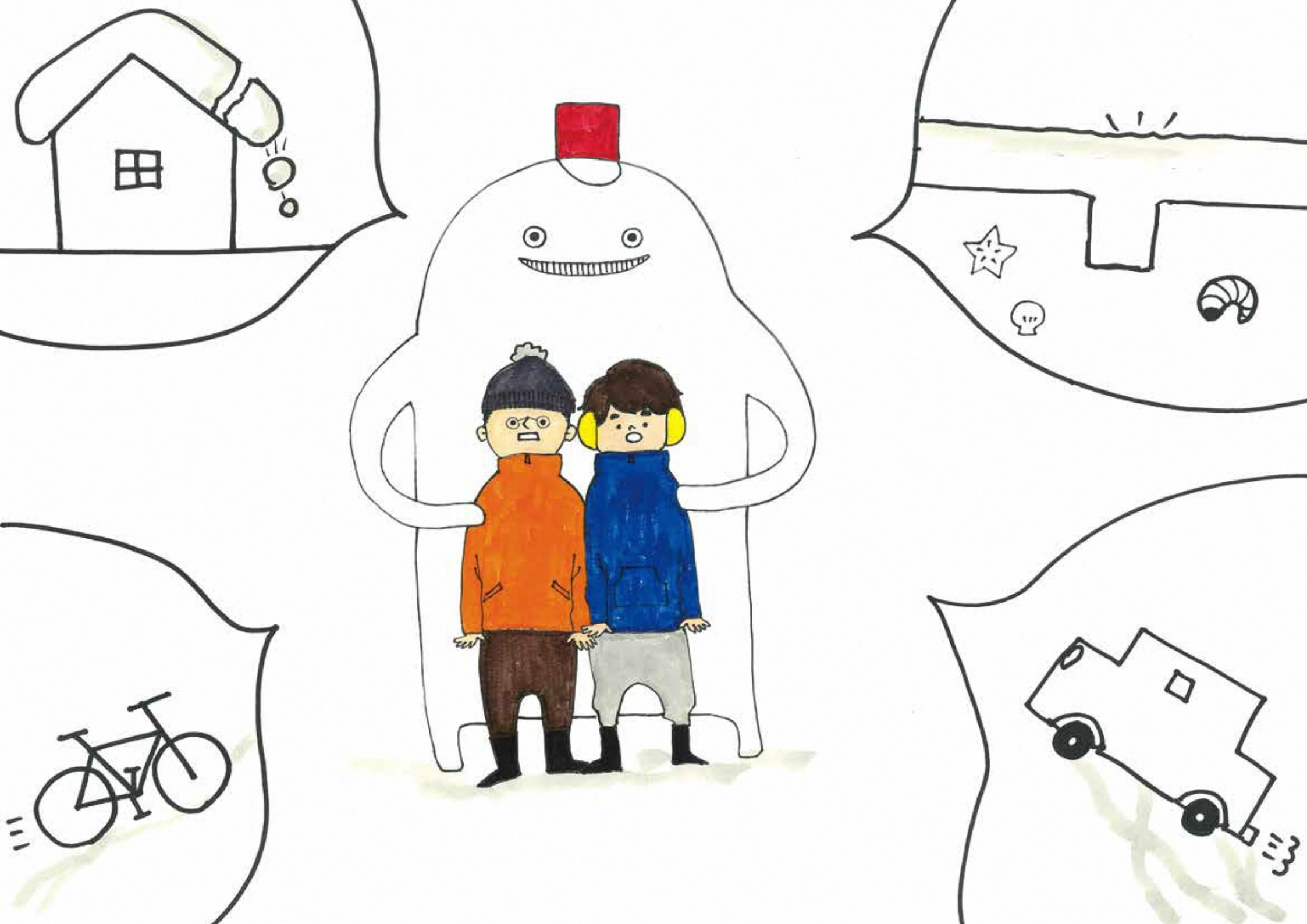
「そうだね、うえを みることも たいせつだけど、
しっかり まわりを みまわして、
くるまや じてんしゃが きていないかも かくにんしよう。」

と、スノーマンが いいました。

「そっか、くるまも あぶなかつたもんね。」

と、しゅんすけが いいました。

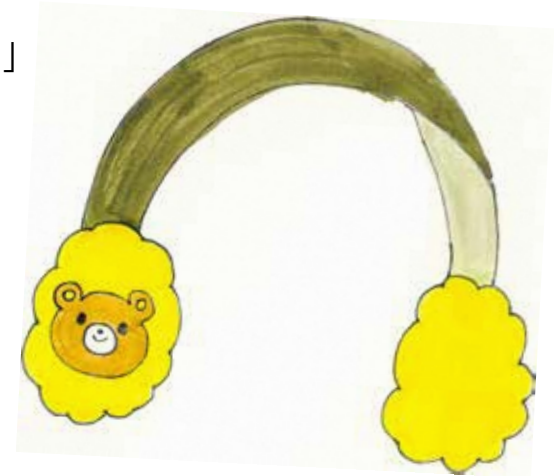


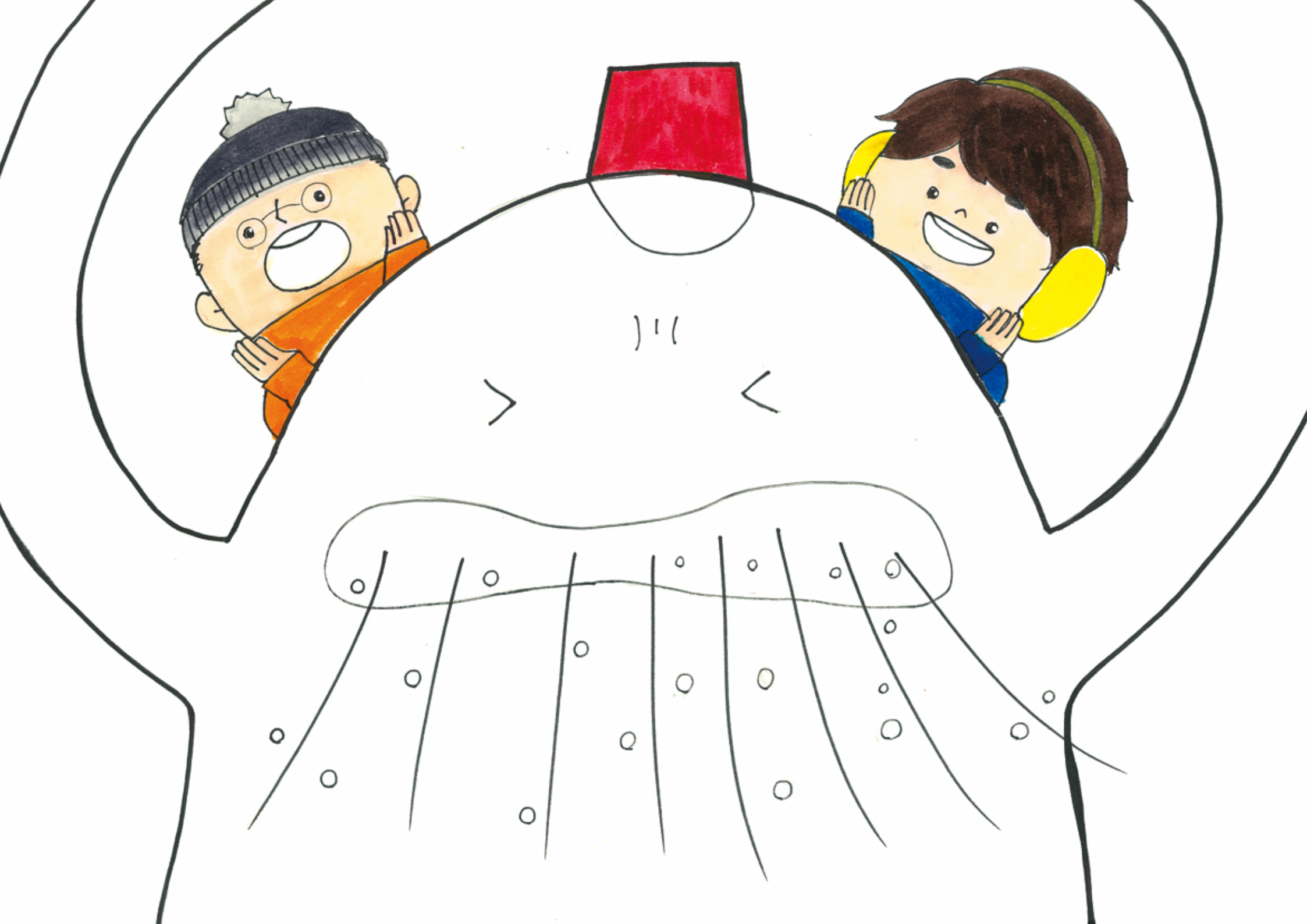


「おっとそうだ、そとに できるときは ぼうし、てぶくろ、
あったかい かつこうで でかけてね。
それから ゆきみちや こおったみちを あるくときは
ペンギンみたいに よちよちあるきをすると ころびにくいよ。
もし ころびそうなときは しりもちを つくようにすると
けがをしにくいんだよ。」
と、スノーマンが おしえてくれました。
「もう ゆきあそび したくなっちゃったよ。」
と、しゅんすけが いいました。
「よーし ぼくが あんぜんにあそべるように してあげよう。」
と、いって スノーマンは

「シュゴゴゴゴゴ—————」

と、おおきく いきを すいこみました。





すると なんとということでしょう。
スノーマンの からだは みるみる おおきくなり、
おおきな すべりだいに へんしんしました。
スノーマンは てを さしのべ、
「さあ このてに おのり。」
と、いいました。

「ヤッホー！」

けんと と しゅんすけは スノーマンを かけのぼり、
すべりだいで たのしく あそびました。





「けんと しゅんすけ、おやつよ！おきなさい。」

と、おかあさんが 行って ふたりを おこしました。

あれっ ふたりは うたたねをされていて どうやら ゆめを みたようです。

「いまね、スノーマンと すべりだいで あそんだんだよ。

おおゆきが ふると そとは あぶないことだらけなんだよ。」

「スノーマンが おしえてくれたんだ。」

と、ふたりは そろって いいました。

「おーい、けんと しゅんすけ、

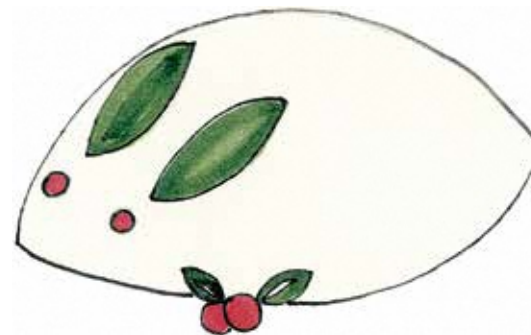
ゆきかきが すんだから

そとで あそんでも だいじょうぶだよ。」

と、おとうさんが いいました。

「おとうさん ゆきだるまを つくろう、つくろう！」

と ふたりは うれしそうに いいました。





あとがき

長野県に暮らすということは、冬の厳しい寒さと雪害から生活を守る戦いでもあります。

子どもにとっては、雪遊びは冬の遊びの楽しみの原点です。しかし反面、大雪が降ると、電車やバスなど公共交通機関の乱れ、除雪中の屋根からの転落事故や、雪道での転倒、自動車や自転車のスリップ事故、家屋や樹木の積雪による被害など、深刻な災害になります。

この絵本は四才児以上を対象に、大雪が降った時、安全に遊び、暮らすためのささやかな心がけを、こどもたちに知ってほしいという目的で、長野県短期大学幼児教育学科3年造形表現IIの科目履修生により制作されました。

また長野市との幼児防災啓発連携事業として制作されました。

参考文献 「減災のてびき」長野市総務部危機管理防災課発行

この本を作った人たち

絵・文	長野県短期大学幼児教育学科3年 堤 健人 中村駿介 林この美 半田莉幸
監 修	長野県短期大学幼児教育学科造形研究室 小林亮介 長野市総務部危機管理防災課 北澤健志
発 行	長野市総務部危機管理防災課
印刷製本	株式会社 信光社
発 行	2017年10月